

### 厚生省（3）構造的腐敗

全国各地の社会福祉協会に民間性を指導してきた全国社協は、今は会長ら上部は厚生省OBが独占。その中の福祉経営者協議会長（これもOB）が厚生省汚職に関して声明している。「今回の不祥事は極めて異例。通常はそんな事あり得ない」と断言。奇妙なことに、密接な関係にある厚生省汚職グループへの批判も、国民への謝罪も全くない。この官僚体質は救いようもない。

七項目を挙げて説明しているが詭弁ぎべんの連続。第一項で「法人の財産は国庫に帰属するから（施設経営者の）利益は発生しない」と。こんな逃げ口上は何の説得力もない。彼らは今こそ福祉の本質に立ち帰るべきなのに、厚生省が原因で起こる構造的腐敗を意図的に隠している。福祉への反逆である。初めから犯意かんにで臨めば福祉はもうかるではないか。

俗称ゴールドプランの下、特養ホーム経営希望者が各県に殺到、だれが選ばれるか。地元の有力者の口利きが一番のポイント。そして業者がその要かなめに座れば万全になる。

それが政、官（地方では県）、業（建築屋と福祉事業屋）の三者結合の構造。

私はこの協会には不参加だが、小さい施設経営者。だからお前はどうか？ と聞かれよう。二十年前施設を造った。業者が値引き分として一千五百万円を提供、これを謝絶して合法的に法人寄付をすすめた。伝聞によると、中央共募と国税庁を經由するらしい。両者は「こんな例は初めて」とすこぶる困惑したとか。では、噂は本当だったのか。伝聞は得てして虚実相半ばするものだが。

ゴリキーは名作「どん底」で主人公ペーペルに言わせている。「人間という奴はみな他人ひとには良心を持ってと言いたがる。だが自分が良心を持つとなると大損だわい」

（一九九六年十二月二十一日）